

【一葉の魅力⑦ 「コスメ」も学べる薬学部〈2〉 他大学とは「ここ」が違う】

2025/12/25 公開



第一薬科大学薬学部では、若い世代の関心が高い「コスメ」に関する学びも取り入れています。西日本で唯一「漢方薬学科」を持つ本学では、化粧品学の講義にも漢方の知識を積極的に盛り込んでいるところが特長。後期の講義「化粧品学Ⅱ」では、美容にもつながる「ダイエットと漢方」もテーマに取り上げました。

「ダイエットも食事を管理しないと成功しません。まずは食事の改善を」。そう語ったのは、前期の講義「化粧品学Ⅰ」(本企画①「化粧品も学べる薬学部〈4〉」参照)でも講師を務めた、漢方専門薬局「大丸薬局」(横浜市)取締役で、管理薬剤師の大野賢二先生です。

講義では、肥満症とメタボリックシンドロームの違いについて触れたうえで、肥満が心不全や認知症などを引き起こす“出発点”であることにも言及。

日本人の場合、肥満の割合が男性では40代、女性では60代に高くなる傾向があると指摘しました。一方、20代女性の5人に1人が「やせすぎ」に当たる、月経不順などの健康リスクにつながることも述べました。

また、肥満症をはじめとする生活習慣病に効果があるとされる「防風通聖散」など3種類の漢方薬についても解説。これらの薬を紹介する動画が複数公開されており、それぞれ数万回再生されていることもあって、大野先生のもとにもその関係で相談に訪れる方が多いそうです。

ただし、体質や便の状態を十分に確認したうえで処方しないと、肝機能障害や間質性肺炎などの副作用を引き起こす危険性があることも指摘しました。

さらにダイエットの失敗例をいくつか挙げた後、腸内細菌が大腸内で海藻類などの水溶性食物纖維を分解して作り出す「短鎖脂肪酸」を増やすことが、ダイエット成功の一因となることも説明。学生たちは興味深そうに耳を傾けていました。